

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	2	実施計画番号	86
事務事業名	消防団屯所の整備		
個別事業名		事業開始年度	-
担当課名	総務課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	消防組織法・十和田市消防団条例	関連事務事業	
背景や経緯等	平成21年度から老朽化の著しい屯所や統合計画で決定した建設用地を確保している部の屯所を引き続き5か年の年次計画で毎年1棟ずつ新築し、活動拠点施設の整備を図る。		
事務事業の目的	火災及び災害発生時に地域住民の生命と財産を守る。		
実施状況	平成21年度から年次計画に沿って毎年1棟ずつ新築(解体)を進めている。		

### 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

### 【事業費の推移】

	22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)	13,825	12,160	13,776
うち一般財源	2,902	834	1,262
うち国県支出金			
うち地方債	10,923	11,326	12,514
うちその他			

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	消防屯所の建設				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		棟	1	1	1	
	活動指標名②	消防屯所の解体				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		棟	2	0	1	
成果指標	成果指標名①	消防屯所の建設				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		棟	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②	消防屯所の解体				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		棟	目標値	2	0	1
	実績値		2	0		
	達成度(%)		100%	-		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	2
計画No	86

**【担当課による検証】**

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地   0 / 4	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		4	建築の経過年数及び屯所の統合計画を基に地域住民の理解を得ながら進めている。
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地   0 / 6	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		6	現状では年次計画通り進んでいるが、消防団員数や屯所の経過年数を考慮し建設計画及び統合計画の見直しが必要。
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		6	成果向上の余地   0 / 6
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地   0 / 6	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		6	統合計画を進めることにより屯所の有効活用を進める。
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		6	コスト削減の余地   0 / 6
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		4	年次計画により順次整備を進めていることから受益の偏りはない。
			現在の適性	20 / 20	改善の余地   0 / 20		

**【点数化による検証】**

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

**【担当課長による評価】**

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

さらに重点化を図る

方向性の理由
市民の生命と財産を守る消防団の活動拠点施設となる消防屯所の機能向上を図るため、老朽化した施設の改築を行う。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
30年以上経過した施設が26棟あり、施設の機能性、老朽度及び消防団の再編計画等を踏まえ、効率的で効果的な施設整備を計画的に行う。